

No.22 生活安全体制の強化＜防災＞ （総務課）

令和5年度までにめざす姿

地域での防災対策や自主防災活動等の重要性を積極的に啓発して組織づくりを進めます。
避難行動要支援者をはじめ、町民の安否確認と被害状況を確認する体制を整え、初動活動として町民の協力体制の確立をめざします。

令和2年度にめざした成果

- ①自主防災組織の新規立ち上げと具体的な活動支援を行うとともに、防災訓練の実施に加え、小中学校、高齢者サロンを中心に防災意識の向上を図ります。
- ②支え愛マップづくりを通して、集落単位で防災・災害対応意識と行動ができる集落を増やします。
- ③防災士の育成を行います。

令和2年度にめざした活動

- ①学校コミュニティスクール、いきいきサロンにおける防災教育を実施します。
- ②地域における災害時等における共助への理解を深めます。
- ③集落や協議会を通じて防災リーダーに防災士の資格を取得していただきます。

令和2年度の成果

- ①いきいきサロンでの説明会を3箇所で行い、災害の脅威及び防災の心得の情報共有を行い、自主的に避難行動をする意識が向上しました。
- ②支え愛マップの作成が46集落になりました。
- ③14名が防災士の資格を取得しました。

令和2年度の問題

- ①新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大を受け、計画どおりに説明会が開催できませんでした。
- ②支え愛マップの中で空白地帯があり、原因としては個人情報掲載の同意がとれないという背景があります。
- ③防災士のなり手が不足しています。

令和3年度以降の方策

（1）達成できた事項をさらに伸ばす方策

- ①地域の防災リーダーと集落役員との連携を深め、自主防災組織の新規立ち上げ、地区の防災計画の策定を進めることで、活性化を促進します。
- ②支え愛マップは、社協との連携をさらに深め、マップの作成に取り組む集落を増やし、マップを作成した集落のステップアップを図ります。

（2）解決すべき問題への方策

- ①自主防災組織の新規立ち上げに向けて啓発及び説明会を行います。
 - ・自主防災組織の活性化に向けて啓発及び説明会を行います。
- ②個人情報の取り扱いを明確にし、他地域ではわからないようなマップ作りを進めます。
- ③様々な人材の方に防災士への理解を深め、地域の共助への理解を深めていきます。

（3）新たに取組む方策

- ①自主防災組織の立ち上げと活動の組織化、防災意識向上のための勉強会・説明会を引き続き進めます。
- ②支え愛マップの目的と災害時の個人情報の共有意義と個人情報保護のルール作りを進めます。
- ③防災士の育成及びOBの活用、ネットワークづくりを行います。